

Summer Family Concert

プログラム

1. グリムカ作曲：歌劇『ルスランとリュドミーラ』序曲
2. チャイコフスキー作曲：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
～休憩～
3. ドヴォルザーク作曲：交響曲第9番 ホ短調 作品95<新世界より>

曲目解説

● グリムカ作曲：歌劇『ルスランとリュドミーラ』序曲

ロシアの民話に基づく国民オペラである。歌劇の舞台は中世で、キエフ大公の娘リュドミーラ姫が酒宴の最中に悪魔に連れ去られたが、姫の意中にあったルスランが姫を救い出し二人は結ばれる。序曲は明るく活気に満ちている。

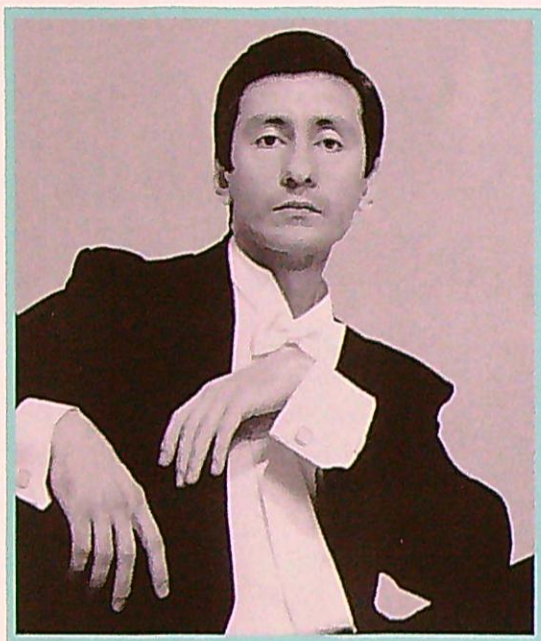
● チャイコフスキー作曲：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23

このピアノ協奏曲の楽譜を見てニコライ・ルビンシュテインは演奏不可能と酷評した。そのため大指揮者で名ピアニストのハンス・フォン・ビューローに捧げられ、ビューローはこの曲を各地で演奏し大成功を収めた。後にニコライはこの曲の真価を悟ると自分の非を認め、この曲の普及に尽くしたのである。

● ドヴォルザーク作曲：交響曲第9番 ホ短調 作品95<新世界より>

この副題の意味は『新世界アメリカより故郷ボヘミアの人達へ望郷のお便り』でアメリカで作曲された。イングリッシュホルン(コールアングレともいう)で演奏される第二楽章の主題は「家路」の歌(堀内敬三作詞)として親しまれている。この曲の材料にはアメリカ・インディアンの歌や黒人霊歌にヒントを得たものがあるとしても、音楽そのものはあくまでもボヘミアの精神である。

プロフィール



Vladimir OVCHINNIKOV, Piano

モスクワの東方に位置するウラル地方に生まれる。幼い頃、両親とともにモスクワに移り、A・ア
ルトボレフスカヤの生徒としてレッスンを開始。

モスクワ音楽院に進み、ロシアン・ピアノリズムを世界に知らしめた名ピアニスト・指揮者のひとり、
アレクセイ・ナセトキン教授に師事。

1980年モントリオール国際音楽コンクール第2位（1位にイーヴォ・ポゴレリッチ）、1982年チャ
イコフスキー国際コンクール最高位（1位なしの2位）をピーター・ドノポと分かつたなど素晴らしい
成績を収めた後、1987年リーズ国際ピアノコンクールで優勝、エリザベス女王の御前演奏を
行うなどイギリスで大成功をおさめ、センセーショナルな世界デビューを果たす。特にイギリスで
はロイヤル・フィル、フィルハーモニア管、ロイヤル・リヴァプールフィル、BBC響、ロイヤル・スコ
ティッシュ管、BBCウェールズ響、ボーンマス響、ハレ管などほとんどの主要オケと共演。

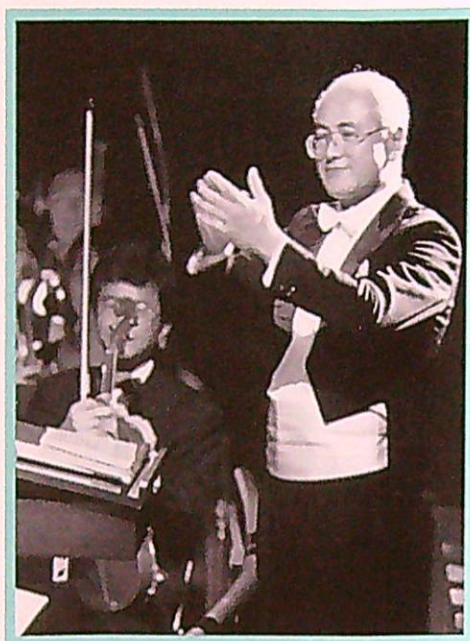
最近のシーズンでもシカゴ響、モントリオール響、ライプツィヒ・ケヴァントハウス管、チューリッヒ・
トーンハレ管、ハーグ・レジデンス管、オランダ放送管、モスクワ・フィル、モスクワ放送響、ロシア
国立響等と共演している。

これまでに、エフゲニー・スヴェトラノフ、ウラディーミル・アシュケナージ、ルドルフ・バルシャイ、
サー・ゲオルグ・ショルティ、マリス・ヤンソンス、ウラディーミル・フェドセーエフ、ネーメ・ヤルヴィ、
リボー・ベセック、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ、ワルター・ウェラー等の指揮者と共演して
いる。

ソロリサイタルも精力的に活動し、数々の音楽祭に招かれ、これまでにカーネギーホール、ヴァン
クлайヴァーン祭、ハリウッド・ボウル、アルデバッハ、エディンバラ、チェルトナム、リッチフィールド、
ルラゴレン、ポルトガル・シントラ、イタリア・ストレーザ、ロンドン・ポルムの音楽祭に登場した。

レコーディングでは「リスト／超絶技巧練習曲」を収めたCDでEMIよりデビュー、その後も「ラフ
マニフ／音の絵」「プロコフィエフ／ピアノソナタ全集及びシンデレラより小品」などを次々と
リリースした。

演奏活動と並行してモスクワ音楽院、ロンドン王立アカデミーで教鞭を執り、2001年よりくら
しき作陽大学モスクワ音楽院特別演奏コースピアノ専攻特任教授に就任。



菊池 東<指揮>

昭和23年倉敷市玉島生まれ。5歳の時よりヴァ
イオリンを始める。広島大学工学部卒業後上京し、
東京都民交響楽団のサブコンサートマスター、モ
ーツァルト室内管弦楽団のコンサートマスター等
を経験し、昭和48年に帰岡。昭和49年仲間と共
に倉敷室内管弦楽団（現倉敷管弦楽団）を設立。
以来、現在まで30年にわたり同楽団の常任指揮
者として、交響曲・管弦楽曲等を中心にバロック
音楽から映画音楽、ミュージカル、オペラと幅広
いレパートリーで各地で演奏会を開催する。

協奏曲の指揮者として共演したソリストも多く、ヴ
ァイオリンのアナスタシア・チェボタリョワ氏、久
保陽子氏、漆原啓子氏；チェロの岩崎洸氏、安
田謙一郎氏；ピアノの深沢亮子氏、蔡佩貞氏など；
またソプラノの横山恵子氏、テノールのリヒアルト・
ブルナー氏ほか、岡山県内で活躍する音楽家
との共演は多数にのぼる。

また指揮者としてばかりでなく、ヴァイオリン、ヴィ
オラ奏者としてソロや室内楽の演奏活動も続け
ている。そのほか毎年春には「蔵の中コンサート」
として「うまい酒と料理と音楽を楽しむ会」を開催
している。

現在、倉敷音楽協会会長、倉敷市文化振興財
団評議員。